



Title	都市中心部における小規模観光事業の展開過程に関する一考察：個人・家族・同人グループ経営の宿泊施設「ゲストハウス」を事例として
Author(s)	石川, 美澄
Citation	日本生活学会第38回研究発表大会梗概集, 54-55
Issue Date	2011-05
Doc URL	http://hdl.handle.net/2115/52574
Type	conference presentation
Additional Information	There are other files related to this item in HUSCAP. Check the above URL.
File Information	presentation.pdf (2011年5月日本生活学会プレゼン@早稲田)



[Instructions for use](#)

都市中心部における小規模観光事業 の展開過程に関する一考察： 個人・家族・同人グループ経営の 宿泊施設「ゲストハウス」を事例として

石川美澄 Ishikawa Misumi

北海道大学大学院 国際広報メディア・観光学院
観光創造専攻 博士後期課程

E-mail: ishikawa@cats.hokudai.ac.jp

疑問

なぜ、今、
宿泊型のゲストハウスが増加しているのか。

雇用される側から自営する側となった若年層は、
仕事を通じてどのように個人の発展を遂げるのか。

経済的・文化社会的利得の獲得・享受過程
自己の夢や希望の実現

背景

- 国内の仕事・就労を取り巻く社会構造の歪み
- 出身地や自分が気に入った場所で自ら事業を興し、身の丈に合った仕事をする若年事業者の存在（宗田2009） →例：ゲストハウスを経営する若者
- 観光開発における個人事業の重要性（V.L.スミス1995）
- 「観光」と生活が直結することによるリスク

ゲストハウス(GH)とは？

- 明確な定義はない。
例：首都圏＝居住型GHと宿泊型GHの2つがある
- ゲストハウス、ホステル、ドミトリー、バックパッカーズハウスなどとも呼ばれる。

定義：

個人や家族、友人同士等の同人グループによって経営・運営されている比較的小規模で低廉、かつ相部屋制度と素泊まりを基本とする宿泊施設。

目的／調査対象地域と選択理由

- **目的：**

一つの地域におけるGHの展開過程を、GH事業を展開する者(GH事業者)の背景に焦点を当てて整理し、考察を行うこと。

- **調査対象地域：**北海道札幌市中心部

- **選択理由：**

- ①日本を代表する観光地だが、GH数が少ない
- ②2008年以降に、相次いで4つのGHが開業した

札幌市中心部のゲストハウスの展開過程

(1)聞き取り調査への参加者

- 2008年以降に開業したGH事業者（4人）。
- いずれも20～30代の男女（仮名A,B,C,D）

(2)調査結果整理時の3つのポイント

- ①開業までの経緯
- ②GH利用経験
- ③同業者との情報交換の有無

GH開業までの経緯

A

- ・ 転勤で札幌市に居住し、しばらく住み続けたいと思う
- ・ 友人とのシェアハウスの予定から一転、GH開業へ

B

- ・ 「ホーム」「守るもの」「ファミリー」をもちたい
- ・ 生まれ育った札幌で人と人の縁をつなげることがしたい

札幌
育ち

C

- ・ 冬季スポーツと仕事を通じて、北海道での暮らしを気に入る
- ・ 海外で自分がもてなされたように、訪日旅行者をもてなしたい

D

- ・ 退職後の新たな仕事として、「自分に合った仕事」をしたい
- ・ 札幌で外国人と関わる仕事がしたい

札幌
育ち

GH経営形態と開業年

A

- 個人→株式会社
- 2008年9月開業

C

- 個人（一人）
- 2009年11月開業

B

- 個人→夫婦
- 2009年4月開業

D

- 家族
- 2010年12月開業

開業に至るまでに経験したGH利用

	国内GH	海外GH
A	△ (GH開業のための下見として)	◎
B	◎	◎
C	×	◎
D	◎	◎

開業に至るまでの 同業者との情報交換等のやりとり

同業者とのやりとり	
A	△
B	◎
C	◎ (対:A,Bのみ)
D	◎ (対:A,B,C,Z)

現在、不定期
に「宿屋会」
を開いている

Z：2001年に開業した札幌市内のゲストハウス

まとめ：

なぜ、札幌という地域でGH事業を展開するに至ったのか

- 札幌という地域やそこでの暮らしに対する
思い入れや魅力を認識・再認識したため。
- 札幌は、道内観光の起点ではあるものの、
他の都市に比べてGH数が少なかったため。
- GH事業者個々の旅やGHを通じた人と人との
出会いや交流の経験があったため。

今後の課題

- 個人や家族など運営主体の違いによる事業展開や生活へのインパクトの検証。
- 個人の経験が、現在の働き方や生き方にどのようにつながっているのかという点に関する考察。
- 若年事業者の社会関係資本の構築過程に関する調査と分析。
- 若年事業者の仕事を通じた自律的・内発的な活動実態とそれによる個人の発展に関する詳細な調査と考察。

【参考文献】

- 宗田好史（2009）『創造都市のための観光振興：小さなビジネスを育てるまちづくり』学芸出版社。
- ヴァレンL.スミス(1995)「第三世界における私企業化：小規模観光企業」、ウィリアムE.シーアボルド編著（1995）『観光の地球規模化－次世代への課題－』、玉村和彦監訳、晃洋書房。